別紙　３（参考様式）

指導方法等の改善計画について

廿日市市立立大野西小学校

１　教科について

国　語

昨年度の課題

◎「読むこと」について，物語文での「状況把握」や説明文での「段落相互の関係」について，積年の課題は改善できていない。キーワードに着目して読むことができていない児童が多い。一方，学校質問紙調査票によると，教師には「指導した」という意識が高い。

◎「言語事項」について，漢字が書けなかった。これも，学校質問紙調査票によると，教師には「指導した」という意識が高い。

◎通過率６０ポイント以下の児童が１４％いる。

昨年度の課題を受けて　具体的に取り組んだ事項

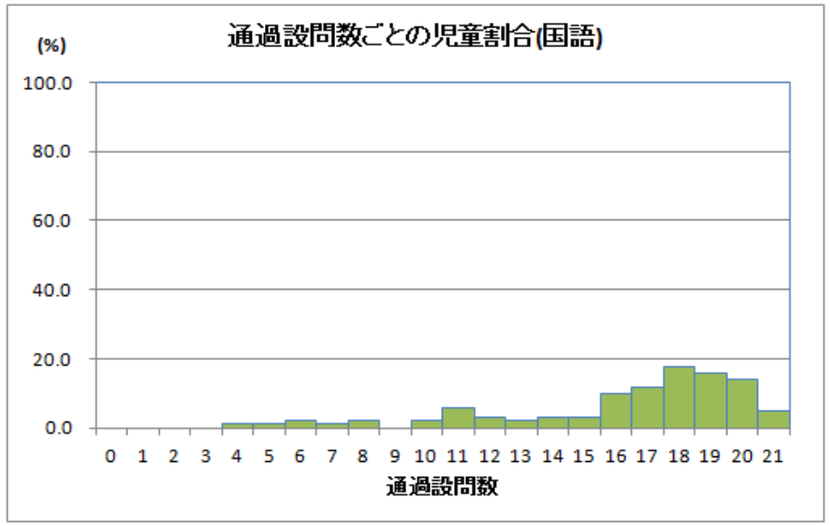
○授業で登場人物の心情を考えさせる際には，接続詞や順序を表す言葉など，叙述に即して考えさせるとともに言葉の意味を確かめ，語彙を広げさせていく。

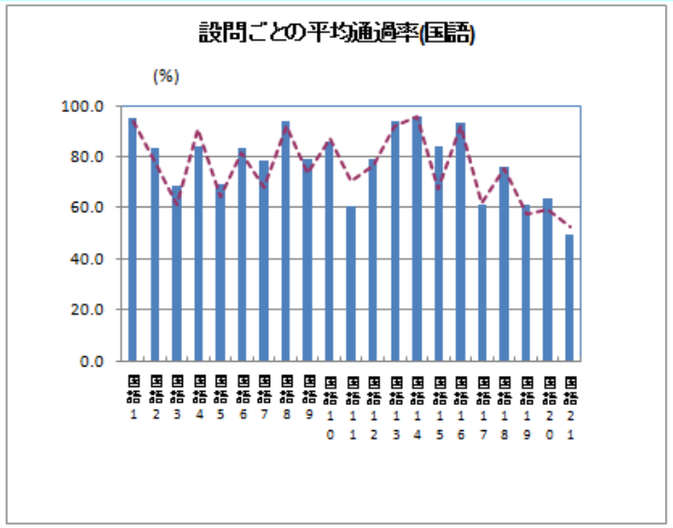
○学校質問紙調査票において「あまりあてはまらない」と表れた「教科書以外の文章について考えさせる指導」に取り組む。

○読書活動の啓発によって児童の意識は向上してきているが，児童が選ぶ図書には偏りが生じる。読書の幅を広げるために，指導者が意図的に機会を設ける。具体的には，文学的文章，説明的文章に触れさせ，読み取りの練習問題に取り組ませる。

○漢字の読みが課題となった背景には，普段からの「とばし読み」が理由として考えられる。漢字スキルの例文や教科書を全員で繰り返し音読することに取り組む。

「基礎・基本」定着状況調査通過率　学校平均　７８．１％　県平均　７５．８％





重点課題　◎：「基礎・基本」定着状況調査　◇：全国学力・学習状況調査

◎漢字の読みについて「幸運」８４．２％（県９０．９％），「良心」６９．３％，段落相互の関係の把握６１．４％と昨年の課題が改善できなかった。

◎ローマ字について，ローマ字を書くことの通過率６０．４％（県７０．４％）と，できていなかった。出題は「hanami」と平易であり，定着していないといえる。また，無解答率が最も高い（読み６．９％・書き７．９％）。

◎「書くこと」について，文章の構成（はがきの宛名の書き方を問う問題）の通過率が４９．５％（県５２．５％）と全問題中最低だった。また，文章の推敲６１．４％，理由を挙げた記述（文の分割）６３．４％と，書くことの定着状況がよくない。

◎通過率６０％以上の児童は８２％にとどまり，今年度の目標は達成できていない。昨年以上に言葉の力がついていない児童が増えている。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

① 漢字練習については文章の中で学ばせることを基本とする。また，そうした練習の仕方を学校として身につけさせ，学び方を学ばせる。具体的には，２学期より，全学級で文章中の「良心がとがめる」等について漢字練習をさせ，その後漢字テストをするなど，連動した学習をすることで統一していく。

② ローマ字については，３～６年生共通の「週末プリント」を作成して，くり返し実施する。尚，教務部がその中心となり推進する。

③ 段落相互の関係や文章の構成については，学校としての授業改善を推進する。その際には，書く活動を有効に活用する。国語の授業スタイルを「大野モデル」として築くとともに，物語文・説明文の読み方について，「これだけはおさえる」という共通指導事項を一覧にしたものを教務部から提起し，指導に生かす。以後，校内研修を通して「大野モデル」を改善していく。

来年度の目標値

○　通過率で，８０％を上回る。

○　通過率６０％以上の児童を，９０％以上とする。

別紙　３（参考様式）

指導方法等の改善計画について

算　数

昨年度の課題

◎領域ごとにみた場合，本校の長年の課題であった「図形」について，取組が効果をあげた。但し，「複合図形」の問題の通過率は，５８．４ポイントで，昨年度を９．８ポイントも下回っている。一方で学校質問紙調査票では，指導者側は「複合図形の面積の求め方を多様に考えさせ，交流させた」という意識をもっており，指導が定着していない。

◎「分数の意味」についての理解を問う設問に対して通過率が３９．６％と低い。また，「およその重さ」を考えさせる設問も３６．６％と最低だった。このことも指導者の意識とズレが大きい。

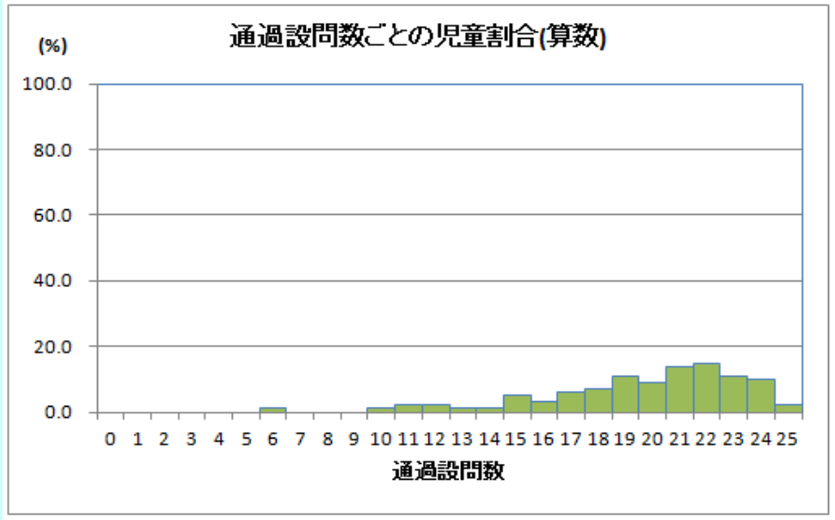
昨年度の課題を受けて　具体的に取り組んだ事項

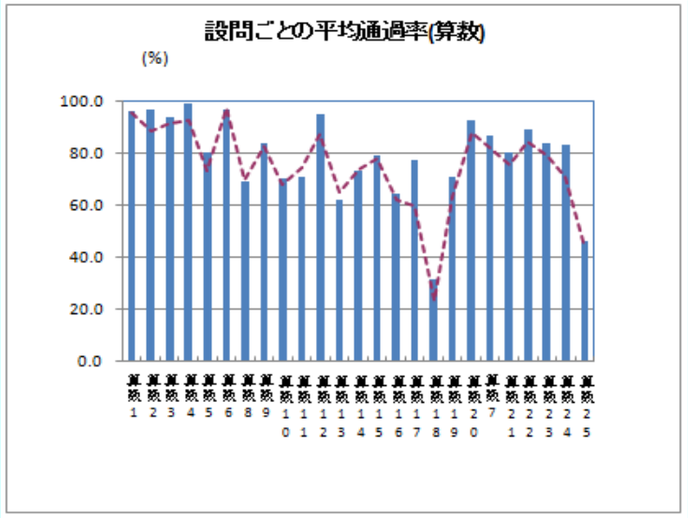
○ドリルタイムや家庭学習など，これまでの取組を継続するとともに，次の点で授業改善を行ってきた。

①絵や図など，思考の過程が残るノート指導
②「問われていること」「分かっていること」など，問題文を正確に読むための具体物，視聴覚教材の活用
③途中を省略せず分かった数値を記入するなど，きちんとした言葉で考えさせる言語活動の充実
④数量感覚を磨くために具体物に触れさせる活動

○学校質問紙調査票で問われたこれまでの指導のあり方については，否定的な回答がほとんど表れなかったこと，通過率６０％以下の児童が１５％いることの２つの側面を受け，学力補充を充実させる。

「基礎・基本」定着状況調査通過率　学校平均　７９．０％　県平均　７５．０％





重点課題　◎：「基礎・基本」定着状況調査　◇：全国学力・学習状況調査

◎分数の意味６９．３％（県７０．１％），１ｋｇのおよその重さ７１．３％（県７４．４％），複合図形の面積６４．４％（県６２．４％）の通過率は昨年と比べて改善されたが，定着したというには十分ではない。

◎２年生の学習内容である時間の問題について，通過率が６２．４％（県６４．９％）である。

◎ひし形の定義を説明する問題について３１．７％（県２３．２％）と全問題中最低の出来であった。無解答率も５％と最も高かった。

◎伴って変わる２つの数量について，関係を表す式を立てること４６．５％（県４４．１％）と２番目に不出来，無解答率も３％で同じく２番目に高かった。

◎通過率６０％以上の児童８７％以上とした今年度の目標は達成できた。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

① およその重さについては，実感を伴わせる活動を授業に取り入れていくことを継続するとともに，保護者に対しても通信で知らせ，協力を得る。さらに，校内に「算数の広場」を設置（研究部）し，教室内外で日常生活とのつながりの場を設定する。

② 時間については３年生以上でもスパイラルに復習の場をもたせるとともに，家庭学習強化週間学習記録カード（教務部）に，学習した時間を時計の針で記録させるコーナーを作る。

③ ひし形の定義を説明する問題・伴って変わる数量については，考えの理由を言う・理由を書く場を取り入れた授業改善を推進していく。「大野モデル」の授業づくりについて，授業研究を中心に研修を深める。問題提示の場面で，何が分かって何が分からないかを問うことを全学級で行うとともに，学年が変わっても使えるノート指導を充実させる。

来年度の目標値

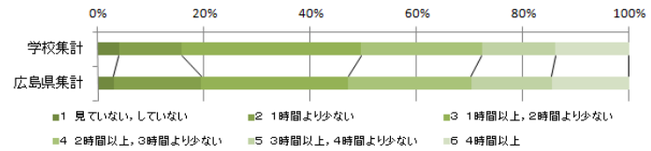
○　通過率８０％を上回る。

○　通過率６０％以上の児童を，９０％以上とする。

２　質問紙調査　（「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査，児童質問紙調査）　（全国学力・学習状況調査：学校質問紙，児童質問紙）

（１）生活・学習

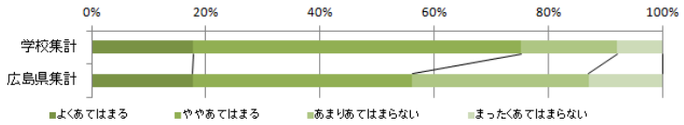
ふだん（月曜日～金曜日），１日何時間くらいテレビを見たりゲームをしたりしていますか。



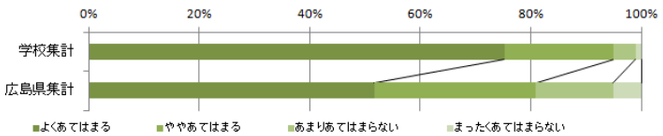
改善したい点（◎「基礎・基本」，◇「全国」）	今後の具体的な取組みの内容
◎　改善傾向にあったテレビ・ゲームの時間だが，今年度は極めてよくない（4時間以上，３時間以上４時間未満ともに，１３．９%）。これに２時間以上３時間未満を加えると，合計で５０．６%と過半数を超える。今年度の目標は達成できていない。 ◎　ふだんの家庭学習時間が１時間に満たない児童が２９．７%（昨年度１４．９%）いる。今年度の目標は達成できていない。	「Ｉ　ＬＯＶＥ　読書　ＤＡＹ（ノー・テレビ・ゲーム）」を毎月設定し，図書委員会を中心とした活動を展開するとともに，昨年度より「家庭学習強化週間」を小中一貫の取組として実施している。しかし，児童・家庭によって受け止め方に大きな差がみられる。今後も一層の啓発を進め，家庭学習習慣の確立と，生活習慣の確立をめざす。そのために，日常の宿題をやり切らせるとともに各通信の活用による啓発を図る。
来年度の目標値	・　**テレビ・ゲームの時間が３時間以上の児童を１０%以下にする。** ・　**家庭学習の時間が１日１時間以上の児童を９０%以上にする。**

（２）教科

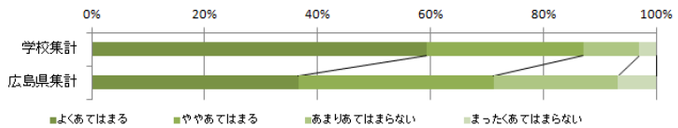
国語の授業を楽しみにしています。



算数の授業はよく分かります。



考え方やとき方を絵や図に表したりまとめたりしています。



	児童の回答と学校の指導についての課題（◎「基礎・基本」，◇「全国」）	授業改善の方向性や具体的な取組み
国語	◎「国語の授業を楽しみにしている」の設問で肯定的な回答をした児童の割合は７５．２%（昨年度６１．４%）であり，今年度の目標を達成し改善はしているが，十分ではない。 ◎指導方法について，「相手が自分に何を伝えたいのか話の中心を考えながら聞く」の設問に対して，肯定的評価をした児童が８８．１%，「伝えたいことの中心を考えて書く」が８２．２%と，かなり高い。一方で，「聞くこと」「書くこと」について，教師は実際の授業の様子から課題を感じており，児童の意識と技能との間に隔たりを感じる。	○校内研修を通して，国語の授業スタイル（大野モデル）を築く。小中一貫校として９年間積み重ねていく学習スタイルである。その際，本校，算数の取組で成果があったことを受け，授業展開とノート指導を全学級で共有化する。 ○一方的に情報が送られてくるテレビやゲームとの付き合い方を考え，自ら生活を組み立てられるように生徒指導を行うとともに，家庭学習とりわけ〆切りを設定した自主学習に中・高学年から取り組ませる。まずは生活改善により，国語科において言葉の力が弱い児童の学力向上を図る。
算数	◎「算数の授業はよくわかります。」の設問で肯定的な回答をした児童の割合は９５．０%（昨年度８７．１%）である。校内研修を中心にした本校の取組は成果をあげている。 ◎指導方法について，「算数の授業では，分数の文章問題を考えるときには１に当たる大きさに気をつけている」８４．２%（昨年度６９．３%），「考え方やとき方を絵や図に表して考える」８７．１%（昨年度６２．４%）と，それぞれ昨年度を大きく上回っており，今年度の目標は達成した。しかし，分数の意味・複合図形の面積・ひし形の定義を説明する問題は定着できておらず，児童の意識と技能との間に隔たりを感じる。	○校内研修を通して，算数の授業スタイル（大野モデル）を確立していく。中学校との連携の中で，小学校での取組の課題を明らかにしながら，日々の授業改善を行う。 ○ひし形の定義を説明する問題の通過率が低かったことから，考えの理由を書いたり話したりする等，言語活動の充実を図る。
来年度の目標値	**・「国語の授業を楽しみにしている」の設問で肯定的評価が８０%以上。** **・「算数の授業が好き」の設問で肯定的評価が８５%以上（今年度８１．２%）。**	

指導改善のための実施スケジュール

～９月　１０月　１１月　１２月　１月　２月　３月　４月

Plan　Do　調査問題（5･6年）　Check　調査問題（5･6年）　検　証　Action　Check

結果の分析・Ｈ２３の改善計画の見直し
Ｈ２４の改善計画の実施

次年度の計画

読　書　月　間　　読　書　指　導

【教科】

国　語

1　授業改善
　①　書く活動の有効活用
　②　国語の授業スタイル「大野モデル」構築
　③　物語文，説明文の読み方についての共通指導事項提起（教務部）
2　漢字練習
　①　指導改善
3　ローマ字練習
　①　３～６年生共通の「週末プリント」を作成，実施（教務部）

算　数

1　環境整備と保護者啓発
　・通信
　・「算数の広場」の設置（研究部）
2　復習し，教室内外で日常生活とのつながりの場を設定する。
　・スパイラルな復習の場の設置
　・家庭学習強化週間学習記録カード（教務部）
　　～学習した時間を時計の針で記録させるコーナー設置～
3　授業改善
　・授業研究
　・学年が変わっても使えるノート指導

各単元末テストの目標：「数学的な考え方」の観点について期待得点以上の児童の割合が８５％以上

廿日市市学力定着状況調

成果と課題分　析

まとめと次年度の計画

【生活・学習】

学級懇談会　点検　　学級懇談会　点検

生活習慣の見直し
家庭学習習慣の確立

①　「Ｉ　ＬＯＶＥ　読書　ＤＡＹ」と「家庭学習強化習慣」（大野中校区小中一貫での取組）
②　学習規律の指導（「西っ子ノート」周知徹底と指導の継続）
③　保護者連携（「家庭学習カード」「読書ファイル」「自学ノート」の活用）
④　やりきらせる宿題